

# 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



| May |    |    |    |    |    |    |
|-----|----|----|----|----|----|----|
| S   | M  | T  | W  | T  | F  | S  |
|     |    |    | 1  | 2  | 3  | 4  |
| 5   | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 |
| 12  | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19  | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26  | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |    |

May 2024 vol.121

## ◆ 決壊口之碑

所在地：岐阜県養老郡養老町根古地

交通：養老鉄道養老線「美濃津屋」駅 東約5km

岐阜県養老町南東部は多芸輪中と呼ばれる輪中地域で、根古地には、江戸時代に伊尾川（現在の揖斐川）の舟運の要地であった根古地湊があり、桑名・津島方面と養老・高田方面の荷物の中継点として栄えました。明治中期以降は、牧田川と揖斐川の合流地点の付け替えにより、牧田川沿いの湊となり、大垣・桑名の商工業化によって栄えました。また、根古地の南に隣接する大巻には、昭和13(1938)年に旧今尾橋が架けられるまで大巻渡船場があり、美濃と尾張を結ぶ物流の道、津島信仰の人々が津島神社へ詣る道において、揖斐川を船で渡る拠点として賑わいました。

多芸輪中は輪中地域であるがゆえ、度重なる水害に悩まされてきました。江戸時代以降の400年間だけでもその数は500回を超え、特に、昭和34(1959)年の2度の大規模な水害は大きな被害をもたらしました。

1度目は8月12日から13日にかけての集中豪雨で、活発な前線活動と台風7号の影響で記録的な大雨となり、揖斐川上流部の雨量は600mmに達し、揖斐川、牧田川は大出水となって、13日午後8時20分、根古地付近で牧田川堤防が約120mにわたって決壊しました。濁流が流れ込んだ多芸輪中内では一面の大湖水となり、2,900haが泥の海と化し、1,700もの家屋が一瞬のうちに水没、住民は着のみ着のまま堤防上に避難する事態となりました。破堤箇所は懸命に行われましたが、湛水状態が29日間に及ぶ、輪中地域特有の水害となりました。

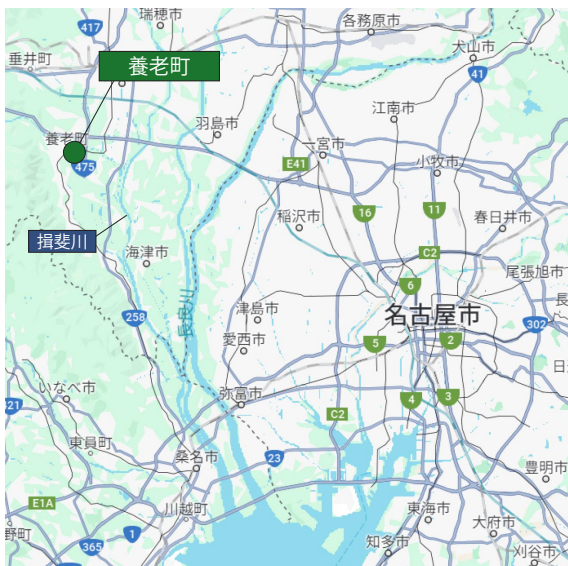
ところが、豪雨から1か月が経過し、堤防の復旧と輪中内の排水が完了したのもつかの間、9月26日に伊勢湾台風が襲いました。8月の豪雨で決壊した箇所は、以前と比べても堅固な仮堤防となっていたが、台風の猛威はそれを上回り、洪水は仮堤防を溢し、再度同一箇所が決壊しました。台風による湛水範囲は8月の豪雨時とほぼ変わらず、再び34日間にわたり泥水につかることとなりました。

決壊口之碑は、この2度にわたる豪雨災害の記憶を風化させないために、昭和49年10月に根古地の牧田川決壊箇所付近に建立されました。また、大巻の池辺小学校には、この場所の浸水位を示したモニュメントが設置されています。モニュメントには2つの輪が設置されており、上の輪が8月豪雨による浸水位(3.16m)、下の輪が伊勢湾台風による浸水位(2.87m)を表しています。

ところで、この2度の豪雨では、家屋被害や田畑の被害は大きかったものの、適切な避難行動により、死者はいなかったと伝わっています。町内には各所に当時の水位を示す標柱が残されており、日常的に目にする機会を作ること、地域の防災意識の醸成につながっています。



(上) 決壊口之碑  
(下) 池辺小学校のモニュメント  
写真提供 (2枚共)：(一社) 中府地域づくり協会



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



災と Seeing (18) 伊勢湾台風と河川被害 ([http://www.cck-chubusaigai.jp/sai\\_seeing/detail\\_18.html](http://www.cck-chubusaigai.jp/sai_seeing/detail_18.html)) もぜひ併せてご覧ください。



## ◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

### ●鍋田神明社 (vol.39,2017.7)

所在地：弥富市鍋田町

交通：弥富市コミュニティバス「鍋田」停南東約1.3km

鍋田干拓地は、尾張藩などの出資により江戸時代から新田開発が進められ、1837(天保8)年頃には、八穂新田、六野新田、上野新田が開発されますが、嘉永7(1854)年の安政東海地震では堤防や田畑が沈下、安政2(1855)年の水害では堤防が決壊して120戸中116戸が流出し、30名の死者が発生、その後、復旧が断念され放置されてきました。

戦後、食糧増産などを目的として、国の直轄事業として本格的に干拓事業が行われ、昭和32(1957)年に第一期の入植者が現地に入植し、昭和34年には営農を開始、秋には入植後最初の収穫を迎えるはずでしたが、収穫を目前に控えた9月の終わりになって、伊勢湾台風が襲来します。高潮などにより堤防の95%が決壊した鍋田干拓地では、全

域が水没、住宅地や耕地は壊滅し、318名の在住者のうち133名が犠牲となるなど、甚大な被害を受けます。

伊勢湾台風の犠牲者の慰霊のため、昭和44年に鍋田神明社が造営されました。神明社には現在、伊勢湾台風殉難之碑と伊勢湾台風殉難者慰霊観音が安置されています。碑文には「伊勢湾台風の犠牲となり給わりし人々のご冥福を祈り、鍋田干拓地の安全と繁栄、この地に居住されるすべての人々の真の幸福を祈る」と記され、亡くなった133名の氏名が刻まれています。また、慰霊観音には、犠牲者の慰霊とともに、生存入植者の激励の意味も込められていること、犠牲者ゆかりの地の土を混ぜ、常滑市の陶芸作家に観音像の製作を依頼したことなどが記されています。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.39 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

## ★高田まつり

高田まつりは、毎年5月第3土曜、日曜に高田の愛宕神社で開催される曳き軸まつりで、広く防災を祈願して行われる神社の春の例大祭に合わせて開催されます。(2024年は5月18日(土)、19日(日))

3台の軸は2階建ての名古屋形式で、様々な地域の影響を反映した魅力的な軸です。狸々軸は立川流彫刻の作品群が、林和蜻軸は精巧に動く鶴のからくりが、神楽獅子軸は3人の乱獅子が見どころです。



岐阜の旅ガイド HP より

土曜日の試楽では、夜になると、各軸が軸倉前でライトアップされます。日曜日の本楽では、午前9時過ぎから軸が曳き出され、「神幸の儀」「還幸の儀」などが執り行われた後、午後9時過ぎに「曳き別れの儀」が行われ、まつりが幕を閉じます。

## ～鉄道で巡る～

養老鉄道養老線は、大垣駅から北は揖斐駅、南は桑名駅に至る延長57.5km、全線単線の鉄道です。沿線にサイクリングロードが多数存在することから、指定列車で自転車を無料で持ち込めるサイクルトレインを実施、コースの提供も行っています。



養老鉄道株式会社 HP より

毎週木曜土曜には、薬膳料理を提供する薬膳列車も運行しており、風景を楽しみながら四季折々の料理を味わえます。

## ●ブレイクタイム●

### ♪養老天命反転地

養老天命反転地は、名古屋市出身で、世界的に活躍した現代美術家の荒川修作氏と、そのパートナーで詩人のマドリン・ギンズ氏のプロジェクトを実現したテーマパークで、平成7(1995)年に開園しました。約18,000㎡に及ぶ広大な敷地に、水平、垂直な線が極力排除された人工的な地平線が配置され、平衡感覚や遠近感を混乱させる仕掛けが随所に施されています。メインパビリオン「極限で似るものの家」、すり鉢状になった地面に9つのパビリオン、回遊路、大小様々な日本列島が作られており、足元に注意しながら巡ります。



養老公園 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行) 減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2024年5月